

師弟

絆

5123 福山恵里奈

4045 佐々木裕美



ホンモノの佐々木裕美!

佐々木 初めて会ったのはいつだったの?(笑)。

福山 最初は…、あれです。喫茶店でお会いした時です。養成所を出て、ご挨拶の電話をした時に…。

佐々木 お茶した時ね。じゃあ一回会っておつたなって。なんかすごい真面目そうな子だと思って(笑)。

福山 その時まだ車を持っていなかったんで、駅まで迎えに来てくれました。私、スーツで行きましたよね。最初だからスーツで会わなきゃって思って。

佐々木 忘れた(笑)。まあ最初はね。私の最初の印象は?

福山 えっ、言ってもいいんですか?

佐々木 えっ、言ってもいいよ。なんか怖いな(笑)。

福山 最初は「テレビで見た人だ!」って思いました。

佐々木 爆笑。レジャチャンね。確かにそうだね(笑)。

福山 雑誌とかいろんなところに写っているじゃないですか。なので「本物だ!」って思いました。

佐々木 緊張してたもんね。

きっかけは芦村幸香

福山 最初の1年間は師弟じゃない

くて、私のお世話係みたいな立場で…。

佐々木 私たちの時代は、デビューしたらお師匠さんをお願いしやすっていう時代だったけど、時代の流れと共に、今は人間関係が複雑になっていく時代。合う合わないがあるの、今の山口支部は師弟という関係を結ばずにお世話というか指導期間が設けられている。

その後、じゃあどうしますかっていうのを見る側も見られ側も選択肢があるっていう感じになって。その新人の仕事と女子の仕事の基本を教える係が私で…。

福山 それで1年間を終えて、師弟をどうするかっていう話になった時に、芦村(幸香)さんと3人で…。

佐々木 2人で下関に練習で来て、その前にご飯行こつたなって、あつしーも誘って3人でつたなってね。それで3人でご飯したら、あつしーが何も知らずに「裕美さん、師匠なんですよね?」みたいな振りがあつたんだよね。まだ決まってるのに。

福山 芦村さんはお世話係の期間があるっていう仕組みが分かってなかったみたいで。もう師弟みたいに思われて。

佐々木 で私は「えっ、知らない」ってなって(笑)。

福山 私はお願ひしたいなっていう気持ちがあつて。でもまだ1年経ってないくらいの時期だったので。



佐々木 たぶん微妙な時期だったよね。

福山 はい。それで「あ〜」ってなつて。そうしたら裕美さんが「いよいよって言ってくれて。」

佐々木 えっ、私が先? 「お願いします」って言わなかった? 「いいですか?」みたいな。

福山 いや、「私、見るよ〜」みたいな感じだった気がするんですけど(笑)。

佐々木 らしいです(笑)。恵里奈ちゃんとは数回会ったりして、相性は悪くなかったんだと思う。接していく中で、一生懸命だし、(師匠になっても)いいかなって思ったような気がしてきた。でもあつしーがぎっかけだったから、話しやすかったよね。入りは良かったよね。

福山 自然でしたよね(笑)。

師匠に学ぶメンタルコントロールの重要性

福山 学んだことはいろいろあります。

佐々木 えっ、あるの?(笑)。

福山 私は一喜一憂というか、成績が悪かったらすぐ落ち込んだりして。最初の頃は結構して、今でもするっちゃするんですけど、裕美さんは成績とかに左右されずいつも明るくてニコニコな感じ。私もレース場ではそういう風になりたいって思いました。

佐々木 負けたりすると、やっぱり悔しくないはずはないので。でもそれを表に出すことの方が負けのような気がして。みんな悔しいはず。そのメンタルをどうコントロールできるかっていうのは自分にかかってくる。周りを振り回したりするのは良くないから。だつて自分のやったことだから。でもレースが終わったら逆で(笑)。仕事場では一喜一憂しないけど、プ



ライベートはだいたい一喜一憂する(笑)。恵里奈ちゃんは感情の起伏があまりないよね。

福山 はい、落ち着いてます(笑)。

佐々木 普通の生活の時は、恵里

奈ちゃんの方が大人だなんて思うことの方が多くて、だいたい年下だけど学んでます(笑)。恵里奈ちゃんはこのように大人であるべきというか、冷静。だから私とは逆だよ

ね。
福山 みんな違ってみんないい(金子みすゞ風?)って感じです。いろんな人がいて、その人らしさがあるなって思いながら生きてます(笑)。

手厚い? 師匠

佐々木 恵里奈ちゃんはほんと素直で。「私はこう思います」みたいな感じもないし。まあそれがいいか悪いかは置いといて。ちゃんと話もできるし、意思疎通ができる(笑)。確かに成績はまだよろしくないけど、一生懸命なところは買ってる。あとは人の良さ。誰に聞いても(恵里奈ちゃんは)いい人としか言われない(笑)。
福山 裕美さんは全部を包み込んでくれる感じ。まだうまくいかないうちが多いんですけど、それでも「こうした方がいいんじゃないか」とか「ああした方がいい」とか、何て言うのか、手厚いんです!

佐々木 手厚い?(笑)。
福山 レースが一緒の時、自分のことのように私のことまで時間を割いて一生懸命してくれるとか。なににできないことが多いから、もう見捨てられるんじゃないかとか思ったりするんです。

福山 諦められたらどうしようとか思うんですけど、そんなこと全然なくて。一生懸命、面倒を見てもらっています。
佐々木 それが師匠のような気がするけど...(笑)。でもそれは恵里奈ちゃんが頑張ってるから。頑張ってる人には手を差し伸べない、と思う。

ルールはホウレンソウ

佐々木 これはお願いしてることであって、レース場が別で、私が知らない現場であった出来事とか

い、と思う。



は、報告してもらおうようにしています。

福山 私もそれを言おうとしました!

佐々木 知らないところから耳に入るの嫌じゃないですか。いいことも悪いことも、恵里奈ちゃんの口から伝えてもらうようにしています。

福山 ホウレンソウです。
佐々木 そうそう。ホウレンソウはしてるよね。

福山 例えば裕美さんと仲のいい先輩が、私が困ってる時にいろいろアドバイスをしてくださったりとか、誰にお世話になったとかを報告します。ミスして誰々に迷惑をかけたとか。

佐々木 やっぱりお世話になった人にはお礼を言わなきゃいけないので、私からも「恵里奈ちゃんありがとう」とか「恵里奈ちゃんのおかげでいい女子選手も、恵里奈ちゃんを気にかけてく

FUKUYAMA Erina



師弟の絆



SASAKI Hironomi



れる。

福山 支部や地区が違っても、裕美さんがきっかけで自分もお話しさせてもらえるようになったりもあるんで。

佐々木 あとは事故だけはしないでつてお願いしてます。

人々として魅力ある選手に

佐々木 全てを受け止めてあげられる師匠でいたいと思ってます。頭ごなしに怒るというのは私の中であまりなくて、考え方を含めて恵里奈ちゃんなので、そこを受け止めつつ、手を差し伸べる感じ。全部を私色にしようとは全く思っていないです。心が乱れてると、レースにも影響が出るし。恵里奈ちゃんも影響が出るし。恵里奈ちゃんがさつき受け止めてくれるって言うってくれたのはうれしかったし、師匠をここ3、4年やってきて良かったなって思っています。

ます。

福山 手厚くですね(笑)。

佐々木 もはや師弟とかあまり思っていない。ちゃんとした上下関係を保ってくれる、何でもしゃべれる相手、っていう気がします(笑)。

福山 いてくれるという存在に安心感があるというか、裕美さんが話しやすいからそういう気持ちになれていると思います。

佐々木 私も師匠になって、人が頑張りで成長していく過程を初めて経験することができた。恵里奈ちゃんの水神祭は、ほんとに涙が出たし改めて師弟になって良かったと思います。

